

# 平成24年度 【 学園研究費助成金< B > 】 研究成果報告書

学部名 国際コミュニケーション学部

フリガナ ヒロセ マサヒロ  
氏名 広瀬 正浩

研究期間 平成24年度

研究課題名 アニメ・マンガ研究の教育への応用と学生の卒業研究支援プロジェクト

## 研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	広瀬 正浩	国際コミュニケーション学部	講師
研究分担者	長澤 唯史	同上	教授
研究分担者	堀田 あけみ	同上	准教授

### 1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

日本のポップカルチャー・コンテンツに関する教員の研究が蓄積されてきたことと、同コンテンツに関心を持つ学生が増えてきたことを背景に、教員の研究を教育に還元する技術や学生への研究支援体制の構築を高度化させることを目的として研究を進めた。平成24年度は具体的には以下の3点を目標とした。

- (1) 最新の研究成果などから、教育にフィードバックすべきテーマやコンテンツを精査する。
- (2) 学生による研究を奨励するための具体的な方法を実践的に模索する。
- (3) 教員から学生への一方的教育ではなく、双方向的コミュニケーションによる教育方法とその効果を測定する。

### 2. 研究方法等 (300字程度で記述)

本研究では、複数教員による実践を通じて上記の目的を達成することを目指した。具体的には以下の通りである。

- (1) 教員同士の研究会や外部講師を招いての講演会などを企画する。
- (2) 教員と学生が参加するワークショップやシンポジウムを年に数回開催し、学生の発表とコミュニケーションの場とする。
- (3) 研究成果の発表の場として研究雑誌を編集・発行する。

### 3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

まず、講演会やシンポジウムとして以下の企画を開催した。

- (1) アニメ・マンガ研究ミーティング、平成24年5月11日、12:30～13:10、国際コミュニケーション学部棟416教室。テーマ:「アニメ・マンガ研究の第一歩」
- (2) 第1回シンポジウム、平成24年7月7日、9:50～12:20、国際コミュニケーション学部棟010教室。テーマ:「第1部 アニメ論・マンガ論の過去・現在・未来」(外部講師:小林貞弘氏)、「第2部 学生による研究プロジェクトの紹介」(学生3名による報告)
- (3) 第2回シンポジウム、平成24年10月5日、16:45～18:00、国際コミュニケーション学部棟416教室。テーマ:「絆は呪い(じゃない) 高屋奈月『フルーツバスケット』を考える」(学生2名による基調報告)
- (4) 第3回シンポジウム、平成24年12月1日、10:00～12:00、国際コミュニケーション学部棟416教室。テーマ:「物語の売り方」(外部講師:佐野真理氏)

外部講師による講演や学生を交えたディスカッションなどを通して、〈受け身的〉な文化受容ではなく、創造や発信を前提とした文化受容の重要性を確認することができ、またそのための方法について模索することができた。シンポジウム等には多くの学生の参加があった。

また、上記の活動の一つの成果として、研究同人誌『るいともっ!』(平成25年1月30日)を発刊した。これは、企画に参加した学生有志を中心として制作されたもので、創造や発信を前提とした文化受容の成果である。学生はこの研究同人誌の制作を通じて、日本のポップカルチャーについての理解を更に深めることができたし、教員側もまた、クリエイティブな文化批評を教育指導する技術について研究することができ、その技術の習得もできた。

### 4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①ポップカルチャー	②アニメーション	③マンガ	④
⑤	⑥	⑦	⑧

**5. 研究成果及び今後の展望** (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもの数件を記載。)

#### ○研究成果

- (1) 研究同人誌『るいともっ!』、頁数:110、発行年月日:平成25年1月30日、発行者:椋山女学園大学国際コミュニケーション学部表現文化学科。
- (2) 広瀬正浩「もっとアニメを!もっとマンガを!——アニメ・マンガ研究支援プロジェクト設立にあたって」、『るいともっ!』、発行年:平成25年、巻号:1、頁:5～7。
- (3) 広瀬正浩「なぜ私たちは『まどマギ』について語りたいのか」、『るいともっ!』、発行年:平成25年、巻号:1、頁:16～20。
- (4) 広瀬正浩「『空気系』という名の檻——アニメ『けいおん!』と性をめぐる想像力」、『言語と表現—研究論集』、発行年:平成25年、巻号:10、頁:7～22。

#### ○今後の展望

本研究の質的向上を図るためには、より多くの学生への教育・支援事例が必要である。そのため、次年度以降も継続して研究を行うことができるよう、研究環境作りを多角的に行い、引き続き講演会・シンポジウムの開催および研究同人誌の発行に向けて取り組んでいく。